

会 議 録

会議の名称	令和6年度 日向圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和7年2月20日(木) 10時00分から11時50分まで
開催場所	日向市役所 2階 災害対策本部室
出席者	委員10名ほか、各市町村担当
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・日向圏域定住自立圏共生ビジョン(令和2～6年度)の見直しについて ・日向圏域定住自立圏共生ビジョン(令和7～11年度)について ・日向圏域の地域公共交通について意見交換
会議資料の名称及び内容	資料1 概要版 資料2 日向圏域定住自立圏共生ビジョン(令和2～6年度) 資料3 日向圏域定住自立圏共生ビジョン(令和7～11年度) 資料4 意見交換会資料
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容の要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
◇協議事項	
日向圏域定住自立圏共生ビジョン(令和2～6年度)の見直しについて 日向圏域定住自立圏共生ビジョン(令和7～11年度)について	
(資料1、2、3を事務局が説明)	
○委員 資料3のP37の成果指標について、現状値を踏まえて目標値を設定しているということだったが、医療分野については、高い目標が良いのではないかと。あえて目標を下げる必要があるのか。	
●事務局 日向市の総合計画でも成果指標を設定しているが、あまりにも成果と目標が乖離するというのは考えを改めているところである。これまではどちらかというと施設利用者数なども全て増加にしていたが、人口減少を考えると、できて維持、の場合が結構多くなってきており、数字が逆に下がっている目標も中には出てきている。あくまでも達成できるような目標の範囲の中で、どれだけ上げていくかというところをしっかりと見ていく、ということで、そういった意味で、目標としては当然100%を目指すべきであるが、現実問題としてその乖離が生じると、最終的に成果としてどうだったのか、ということになるので、そういった意味で成果指標の設定の仕方については、日向市の方ではそういった意向を反映して設定しているところがある。もう一度担当課には確認をしたいと思う。	

○委員

移住者に関連して、最近、サーファーの方が減っているように感じる。理由を考えたときに、浜に流木がかなり上がっており、それが2年ほど放置されている。サーファーの方は流木の間をぬいながら海に入っている状況である。また、金ヶ浜は公営の駐車場がなく、民間施設の駐車場に止めている状態である。日向市は以前からサーフタウン構想を掲げているが、サーファーの方のために、もっと環境整備に取り組むことが必要ではないか。

以前は、移住を考える方から空き家の相談をよく受けていた。HPなどに空き家情報が上がると、翌日には完売するということがあった。

●事務局

流木に関しては、市から県にお願いはしている状況である。サーファーの方の人数と流木があることの相関関係についてはこちらでは把握はできていないが、いただいた意見は観光部署につなげたいと思う。

空き家については、日向市に空家対策推進室があるが、平岩地区は非常に人気があると聞いている。しかしながら、空き家があっても、知らない人に家を貸すのは控えたいと言った声もよく聞かれる。そういったところも含めて所管課へつなげたいと思う。

○委員

左官や大工など、どの業界でも職人不足に悩んでいる。あと10年、20年すると、家のリフォームをしたくても職人不足で対応できず、3年から5年待たなければならない、といった事態になるのではないかと危惧している。移住の関係で空き家を借りたい、売りたい、となっても、すぐに対応できる職人がいなくなると思う。日向市に職業訓練校があるので、日向東臼杵圏域の職人育成について、もっと連携して取り組んでほしい。大工は、外国人ではなかなか技術面で対応が難しいところがあるので、職業訓練校で若い担い手育成に取り組んでほしい。

●事務局

全国的にも、様々な業界で専門的な知識のある方を確保することが難しい状況である。日向市には県北唯一の建築科がある日向工業高校があるが、卒業しても県外に就職していくと聞いている。まずは学校を残すことが重要であると思っている。生徒数自体も減っている状況であるので、そこを維持していくということと、職業訓練校での育成、連携についても取り組んでいく必要があると思う。圏域で取り組むという視点については、担当課へ意見を繋げたいと思う。

また、9市町村で取り組む宮崎県北定住自立圏の方で、雇用面については農林水産漁業の求職セミナーを開催していた。職人不足というのは市内の事業者さんからも聞いているので、そういった背景を伝えて、雇用の面では9市町村で広域で取り組んでいるところもあるので、求職セミナーや、県内の高校生に対して建築業の魅力を伝える事業を提案していきたいと思う。

日向・東臼杵市町村振興協議会というのが、日向圏域定住自立圏共生ビジョンで組織している実行部隊になっているが、その中の高校魅力専門部会で、県立4校の先生方と意見交換をした。建築に進む人が少ないということで話を伺ったが、日向工業高校としても生徒を集めるのが難しかったり、建築がやりたいから建築科に進むということではなく、ただ入っているという生徒が多いということだったので、生徒に仕事の魅力を伝えることが大切ではないかと考えている。担当課とともに、中学生や高校生に建築の魅力を知ってもらって職人を目指していただくようになると良いのかなと考えている。

○委員

資料3のP37の成果指標について、椎茸種駒購入費の年間助成件数の現状値が63件とあるが、これは人数ということか。また、どういった助成を実施しているのか。

●事務局

日向市においては、3万個以上購入した方に対してその購入費用を助成することになっており、人数であると考えている。補助制度は各自治体でそれぞれ取り組んでいるため、助成内容の詳細については把握をしていない。連携市町村は全市町村となっているが、これまで日向市と美郷町のみから数字を報告していただいている。

○委員

他の町村も数字を上げれば助成が出るということか。

●事務局

他の事業も全てそうであるが、協議会が予算を持っていて、協議会が対象者に対して助成をしているというわけではなく、各市町村が取り組んでいるそれぞれの事業を積み上げて、成果として出している。

○委員

日向市と美郷町だけが積み上げているということだった。諸塚や椎葉にも単独事業があると思うが、計上していないということか。

●事務局

後日また各町村に確認させていただき、修正が必要な場合は修正を行いたいと思う。

○委員

資料3のP37の成果指標について、杉コンテナ苗木の生産量の累計の目標値が350万本となっている。現在、杉の苗木は供給が多くなっていると思うが、350万本という数字は、需要に足りている数字なのか。

●事務局

再造林が課題になっていると聞いており、こちらの数字自体は、目標値としてこれだったら大丈夫だろうという数字で出していると思うが、再度担当課には確認したいと思う。前回の目標値が177.1万本であり、今回の目標が350万本ということで上方修正はされているので、足りている数字だろうと思っているが、改めて担当課に確認をする。

○会長

ただ今議題となった共生ビジョンについては、これまでに出された意見等を踏まえた形で、事務局において必要な修正等を行い、実践に向けた取組をお願いしたいと思うが、これに異議はないか。

(異議なし)

なお、文面については、原則、事務局に一任したいと思うが、重要な部分があった場合は正副会長を含めて協議することにしたと思うが、よろしいか。

(委員賛同)

◇意見交換

日向圏域の地域公共交通について

(資料4を事務局が説明)

○会長

各市町村から地域公共交通について説明があった。ここからは、資料に対する質疑やアイデアなど意見をいただきたいと思う。

○日向市

諸塚村、椎葉村は、人口に対してバス利用者が多い。先ほど報告があったように、スクールバスとしての利用が多いということだったが、児童生徒以外の他の人たちの利用としては、通勤、通院での利用か。

○諸塚村

それもある。このグラフの人数にはふれあいタクシーの人数も入っていると思うが、バスだけだと1万人をきっている。小学校が統合されて、諸塚小学校に遠くから通う人数も増えたので、年間200日ほど幼稚園生から中学生まで毎日乗れば、これくらいの数字にはなる。

○日向市

子どもと一緒に高齢者も同じ車両に乗っているのか。

○諸塚村

乗る。ただし、高齢者はデマンドタイプのふれあいタクシーを選ぶことが多い。

○日向市

別にスクールバスはあるのか。

○諸塚村

ない。誰でも自由に乗車できるものになっており、こどもたちがたくさん利用している状況。

○日向市

椎葉は別にスクールバスがあるということだった。

○椎葉村

ほとんどの学校にはスクールバスがあるが、1校だけスクールバスがないところがあり、そこに通う子どもたちが路線バスを利用している。4割ほどが子どもの利用で、残りの6割は高齢者が利用している。高齢者以外の成人の利用は5%以下ぐらいになる。

○門川町

日向市がライドシェアの視察に行かれたと聞いた。

○日向市

昨年10月末に東郷地域の区長会の会長とまちづくり協議会の会長と東郷の担当職員とで、富山県朝日町に視察に行った。朝日町は、地域の住民が、買い物などの用事のついでに、運転できない高齢者を一緒に乗せていくというライドシェア事業に取り組んでいる。導入前は隣保班の人たちが高齢者の方を運んでいたようだが、乗せてもらった人がお礼としてお米などの食べ物等を渡したりしていたようで、それを町がライドシェアの形に制度化したということだった。ドライバーには数百円しか入らないので、ほとんどボランティア輸送という形だが、中山間地域ではそういった取組を参考にしていきたいと考えている。

○門川町

今月、タクシー事業者の方と話をする機会があったが、一般の車両を管理することがなかなか難しいということで、今のところライドシェアに取り組む予定はないということだった。実際に導入している他の自治体の取組を把握しながら、また協議を続けていきたいと思う。

○委員

日向市観光協会では、宮崎交通の受託事業で定期券の発行などもしているが、宮崎交通も人手不足で、1月からは平日も土日ダイヤに変わったりしている。

日向市から椎葉村に行って、椎葉村から日向市に帰ってくるためには、日帰りだと椎葉村の滞在時間が30分しか確保できない状況である。宮崎交通も今後便の増加はしないと思うので、市町村を越えた移動が日帰りのできるような体制を整えるためには、市町村でライドシェアなどの取組ができると、通院などでの利用がしやすくなると思う。

●事務局

日向・東臼杵バス分科会があり、市町村を越えた地域間幹線などの協議を行っているが、そこが非常に難しい課題となっている。市町村の負担額は年々増えているし、宮崎交通も体力がなくなってきている。かといって、現在市町村が取り組んでいるコミュニティバスを広域でできるかという、道路運送法の厳しい壁がある。現実的に運行できる事業者は宮崎交通か宮交タクシーしかいない。仮に市町村でやろうとしても、今まで以上に運転手を確保する必要があるなど課題が多い状況である。

○会長

たくさんの意見をいただいた。事務局をはじめ、各市町村の担当の皆様には、本日の意見を参考にさせていただき、引き続き、圏域の活性化に向けて努力していただきたいと思う。